

松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第26回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第26回〕

2. 開催日時 令和5年7月20日（木） 19時00分から20時20分まで

3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室

4. 出席者氏名

【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略

松下重幸、佐藤和司、宮下保、福澤友安、唐沢寛文、下澤義彦、坂本勇治、中平文夫、
寺沢秀文、松下敏章、矢澤良一、北沢公彦、宮沢喜好、熊谷誠、増澤あけみ、松浦善文、
西尾明廣、北原俊秀、寺沢茂春

【JR 東海】

中央新幹線建設部名古屋建設部 古谷担当部長

中央新幹線長野工事事務所 杉浦所長、小池副所長、黒澤係長、齋藤主任

// 大鹿分室 水上分室長、水野主任、藤田主席

【長野県】

飯田建設事務所 リニア整備推進事務所 大島企画幹兼調整課長、井原課長補佐

【役 場】

北沢町長、黒澤副町長、小沢課長、大蔵主任

5. 議題

(1) 副委員長について

(2) 発生土運搬について

1) 松川町より

①前河原道路事業で活用する盛土材料仮置工事について

2) JR東海より

①大鹿村内リニア工事進捗状況

②発生土運搬車両の運行状況

③令和6年度にかけての発生土運搬計画

④その他

3) 質疑応答

6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—

7. 傍聴人の数

5人

8. 会議資料の名称

- ・会議次第（町作成）
- ・別冊資料（JR 東海作成）

9. 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 会議事項
上記のとおり
- (4) その他
移動コンテナ局測定結果について
- (5) 閉会

10. 会議録

(小沢課長)

それではただいまから松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会第 26 回を開催いたします。2 番の挨拶ということで中平委員長お願いいたします。

(中平委員長)

改めましてこんばんは。1 日のお仕事も終わりました公私ともにお忙しいなか、この会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

6 月初めに梅雨に入りまして、そのときの予報では、7 月 20 日ぐらいに梅雨が明けるとはなかなという報道もありました。それから今年の梅雨は、梅雨らしい梅雨、あるいは梅雨と雨のはっきりした天候が続いておりました。つい先日は、局部的でありますけれど雷が降ったりして、そんなようなことで大変心配しております。

今日はまたこういう会議でお集まりいただきまして、これから会議の事項に沿って会議を進めていきますので、ぜひとも皆様のご協力をお願いして挨拶と代えさせていただきます。今日は 1 つよろしくをお願いします。

(小沢課長)

続きまして北沢町長お願いいたします。

(北沢町長)

改めましてこんばんは。大変お忙しいところ、リニア中央新幹線建設工事対策委員会ということで、この時間にお集まりいただきまして、ありがとうございます。私事になりますけれども、この 4 月の改選によりまして、松川町長になりました北沢秀公と申します。今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。また本日は JR 東海古谷担当部長様、杉浦所長様はじめ、JR 東海の皆様、それから長野県からは大島課長様はじめ、井原課長補佐様にもお越しいただきましてありがとうございます。この会議が 26 回も重ねているというなかで、当初から様々な課題があったかと思えますけれども、この会議の中で、課題を 1 つずつ解決しながら本日迎えているのだなということを実感いたしますし、これまでの多くの皆様方、ここにいらっしゃる多くの皆様方のご尽力をいただき、本当に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

それこそ、まだまだこれからあるわけですが、松川町にとりましても、今後予定している事業もございまして、これから計画していく事業も出てこようかと思えます。JR 東海それから長野県の皆さんには、様々な点でまだまだお世話になることあるかと思えますけれども、どうぞよろし

くお願いしたいと思えます。

本日は 2 件の会議事項ということになります。委員の皆さんにはこの時間からの会議ということでお世話になりますけれども、どうぞよろしくお願ひいたしまして挨拶といたします。よろしくお願ひいたします。

(小沢課長)

続きまして JR 東海より、中央新幹線建設部名古屋建設部古谷担当部長様よろしくお願ひいたします。

(JR 東海 古谷担当部長)

どうも皆さん、改めましてこんばんは。JR 東海の長野県の担当部長しております、古谷と申します。本日は大変皆様お忙しいなか、説明の機会をいただきまして誠にありがとうございます。また日頃より対策委員会の皆様には、このリニア中央新幹線の事業の推進に当たりまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。重ねてお礼申し上げます。

おかげさまで大鹿村でのリニアのトンネル工事ですけれども、着実に掘削工事を進めさせていただいております。本日はその大鹿村でのトンネル工事の進捗状況ですとか、発生土の運搬の実績、あるいは今後の計画などをご説明させていただければと思えます。当社からの説明の後に、皆様からご意見をお聞きしたり、あるいはご質問にお答えするなかで、しっかりとコミュニケーションを図ってまいりたいと考えております。

JR 東海としましては、委員会の皆様、そして松川町民の皆様とより良い関係が築けるよう最大限努力をしてみたいと考えておりますので、引き続きご指導ご支援賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。今晚もどうぞよろしくお願ひいたします。

(小沢課長)

続きまして、長野県より飯田建設事務所リニア整備推進事務所調整課大島課長お願ひいたします。

(リニア整備推進事務所 大島課長)

皆様こんばんは。長野県飯田建設事務所リニア整備推進事務所調整課長の飯田でございます。

日頃は町を初め委員の皆様方につきましても、それぞれのお立場のなかで県の建設行政につきまして、ご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。また委員長さんはじめ、対策委員の皆様方につきましては、これまでリニア関連事業につきまして、様々議論をいただきまして誠にありがとうございます。

また、大変これまでもご苦勞様でした。引き続きよろしくお願ひいたします。

(小沢課長)

それでは、これより新しく変わりました委員の皆様のご紹介をさせていただきます。資料の 2 ページ目をお願ひいたします。まず古町区長 松下重幸様、上新井区長 佐藤和司様、名子区長 小嶋喜美雄様、大島区長 宮下保様、上片桐区長 大沢勲様、福与区長 福澤友安様、そしてこの表の 20 番になりますけれども、松川町交通安全協会女性部長 増澤あけみ様、以上皆様よろしくお願ひいたします。

後ほど質問とかありますけれども、このマイクで喋るときにスイッチを入れてもらい、喋り終わったらスイッチを切っていただかないとノイズが入ってしまいますので、ご協力をお願いしたいと思

います。

それではこれより会議事項に入りますけども、対策委員会設置要綱第 5 条に、会議は委員長が議長となるということから、中平委員長の進行でお願いをいたします。

(中平委員長)

はい。それではこれから会議事項に入っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

それではまず最初に、(1)の「副委員長について」についてを議題といたします。今回区長会の会長に新たに松下古町区長が選任されました。この対策委員会は、副委員長は区長会長にお願いしていることから、本年度の副委員長は松下古町区長にお願いしたいと思っております。皆様にお諮りいたしますけれど、そのように決定していきたいと思っておりますが、よろしいでございましょうか。

(異議なしの声)

はい、ありがとうございます。それでは申し訳ございません。松下副委員長さん、こちらの方へお越してください。

それでは松下副委員長に一言ご挨拶をいただきたいと思っております。

(松下副委員長)

皆さんお世話になります。どうもこんばんは。古町区長の松下であります。副委員長ということで、大変皆様には大変お世話になります。どうかよろしく申し上げます。

(中平委員長)

はいありがとうございました。それでは 1 年間よろしく申し上げます。続きまして(2)、「発生土運搬」についてを議題といたします。1)の松川町より、①の前河原道路事業で活用する盛土材料仮置場についてを議題とします。説明を求めます。小沢リニア対策課長。

(小沢課長)

資料 4 ページに基づき説明

(中平委員長)

ありがとうございました。関連がありますので、次の2)の JR 東海様からの説明もあわせてお願いしたいと思います。①から④まで併せてすみませんが、よろしく申し上げます。

(JR 東海 齋藤主任)

別冊資料に基づき説明

[質疑応答]

(中平委員長)

ありがとうございました。これから質疑応答に入りたいと思っております。両方一括して質疑を行いたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。それではご質問のある方は挙手をお願いしたいと思います。

どなたかご質問のある方はいらっしゃいませんか。西尾さん。

(西尾委員)

公募委員の西尾でございます。前回と前々回の対策委員会でも質問させていただいた内容と同様ですが、要対策土の発生状況について教えていただきたい。前々回 3000 m³程度というご説明があって、その後前回はそれから大して増えていないというご説明でしたが、その状況について教えてください。

(中平委員長)

要対策土の件に関してご説明をお願いします。

(JR 東海 水上分室長)

はい、ご質問ありがとうございます。大鹿分室の水上でございます。

前回、大鹿から出ている対策土約 3000 m³とお伝えしていますが、それ以降の対策土が出ていませんので、変わりはありませんが、若干この数字の説明の仕方を変えました。トンネルには、元々地山である状態が一番しまっている状態、それからそれを一旦トンネルを掘って出すと、ボリュームが若干緩みますから増えます。さらに、発生土置場に運搬すると、そこでまた締め固めをしますから、またさらに締まるということで、一応この地山とほぐしと締め固めの 3 種類あるんですが、私ども今までこのここで対策土 3000 m³とご説明していたのは、出た時の地山の量で 3000 m³とご説明していました。私ども色々この報告書を出しています。

毎年、環境影響評価書の年次報告の中で、これだけ発生土や対策土がでましたという内容でご説明していますが、そちらは締め固めという、発生土置場に持って行って、締め固めた土量で統一をさせていただきました。

よって、今は外向きにはこの対策土というのは 5000 m³というご説明をしていますが、先ほどの 3000 m³と基本的に変わりなくて、地山で換算していたものを実際に外で埋め立てている。立米に変えたということで、今は大鹿から発生している発生土量というのは約 5000 m³というご説明をしております。量は前回ご説明した以降、対策土は出ていませんので、基本的には同じですが、この数字がいろいろ入り混ざってわかりにくいので、統一させていただいたというところでございます。

(西尾委員)

締め固まると増えるとはどういうロジックか。

(JR 東海 水上分室長)

地山が一番量的には少ない状態ですが、固まっている状態が地山で、それ一旦外に出しますと、それがほぐれますからボリュームが増えます。さらにそれを発生土置き場に持って締め固めますが、元々のこの地山よりはボリュームが大きいので、増えるということになります。

(西尾委員)

山の状態で一番ボリュームが少なかったのが、一旦掘削でほぐれますよね。それを残土置き場に持っていき、締め固めたのが 5000 m³という理解でよろしいですか。

(JR 東海 水上分室長)

はい、そういうことです。

(中平委員長)

よろしいですか。はい。西尾さん。

(西尾委員)

長野県の飯田建設事務所の担当と思いますが、的場橋へ走っていく手前に、相当大的な陥没、特にマンホールが斜めになっている箇所があります。鑄鉄の蓋が、斜めになっていますよね。天竜川沿いに上がっていて、道路の中心側に沿って下がっている状態で、見るたびに陥没の状況がひどくなっているのではないかという印象です。特に乗用車だと車輪が小さいので、割合そこで車両がアップダウンしますが、現時点でどういう判断をされているのかお聞きしたい。

特にあれはオーバーレイをしても対策にならないというようなことなのかもしれませんが、崩れるまでほったらかしになるのかどうかと、それより先に前河原道路が新しくなればいいですけども、洪水等で何べんも繰り返すうちに気がついたら崩落していました、というリスクを現時点でどう判断されているのか教えてください。

(中平委員長)

はいお願いします。

(リニア整備推進事務所 大島課長)

長野県大島でございます。昨年のこの対策委員会の際にも、国道の今の路面の状態といいますが、道路の状態が心配だという声をいただいたところでございます。それで私ども事務所の担当課の方で現地の方、下の擁壁の状態等も確認はさせていただいておるところでございますけれども、非常にこれまで舗装を上に積み重ねていくってというような形で、補修をしてきておりますのでだいぶ傷み具合がひどいというところは認識しておるところでございます。

昨年橋梁等の補修等をさせていただいております、その関係で通行規制等をさせていただいていましたが、また舗装の状況については確認をした上で、今後の補修なり、おっしゃっていただいたような抜本的な改善といったところを検討していきたいと思っております。

(西尾委員)

現時点で耐久性についてどういう判断をなさっているのかご回答いただきたい。

(リニア整備推進事務所 大島課長)

はい。路面の平坦性の部分については、おっしゃっていただいているように、とても平滑と言える状態ではないというふうには思っておりますけれども、現在の一般共用の用に供する道路として通せないという状況ではないと考えております。

(西尾委員)

もう少し具体的に例えば、リニアの工事で大型車両が大量に通るくらいの間は持つでしょうというふう判断されているのか、それとも、3年とか5年とかいうスパンのうちに結構やばくなるんだよという判断をされているのか、少し具体的な判断基準をお示しください。

(リニア整備推進事務所 大島課長)

今私の手元の方で持ち合わせておりませんので、お答えかねるところではありますが、道路の変状というものを急に崩れてしまう場合もありますけれども、徐々に進行していくというような状況がございまして、必要な場合については都度対応していくということもありますけれども、現在の交通量を確保しながら、ここを抜本的に直していくのは非常に時間がかかることかと思っており、現状決して良い状況だとは思っておりませんが、何とか供用に耐えるような管理をしていきたいということで、ご回答させていただければと思います。

(西尾委員)

今回の対策委員会が何ヶ月後にあるのかちょっとわかりませんが、できれば安全性に対する評価についての具体的な判断をお示しいただきたいなと思いますし、頑張っって何とか持つようにしていきますというのは極めて抽象的な回答ではないかと思うので、そこは責任を持って調査もいろんな形でやられていると思うので、工事対象箇所についての総合的な判断を次回までにお示しいただきたい。

(中平委員長)

今の件はここで多分回答が難しいと思いますので、今言われたように、的場橋のその件に関しては、安全性をどういうふうに考えるかも含め、またご回答いただければと思っておりますけど、西尾さんそれでよろしいですね。はい、そういうことで一つ対応の方よろしくお願いします。他にはございませんか。寺沢さん。

(寺沢委員)

知人から町道護岸線のリニア残土運搬のダンプの通行についてちょっと言ってきてくれということで、文書を持ってきたので、読まさせていただきますが、私も現場へ行ってみましたら、これは危ないなというふうに思いました。

「町道洞新線、護岸線については整備が完了したと令和5年3月27日の開催の第25回松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会で報告されておりますが、松川大橋南の信号機に出る手前のクランク部分については改善されていないということで、木は伐採されて少し明るくはなったが、物理的に狭隘であり、ダンプとする違う余裕はない。本来なら、リニア残土運搬ダンプが通行する以前から、改善するべき部分であったところであり、早急に拡幅工事をしていただきたいということで、昨年の6月26日の説明会では、地主との話が難航しているとの事であったが、1年以上経ってどのような話になっているのか、進展はあったのか。事故が起こってからでは松川町にとってもJR東海にとっても不利益このうえない事態になると思われるので、先延ばしすることなく真剣に取り組んでいただきたいということで、その後の状況説明と予定はいつになるのかということをお聞きしたい」ということです。

それからもう一点は、町が最初に説明した発生土を松川浄化センターに置くということでございますが、あの事業予定地は、いつ着工して、いつ行うのか予定をお聞きしたいと思います。

以上2点をお願いします。

(中平委員長)

小沢リニア対策課長。

(小沢課長)

それでは最初の質問を説明させていただきます。まず、この道に関しまして、県道の方で工事をしていただく方向でお願いをしているところであります。

用地の関係は、町の方で交渉させていただいていますが、前回もお話した通り難航していると、電話や通知物も送っており、電話も何回もやりとりしておりまして、とにかく一度会って話を聞いてくれと、そういうふうに話をさせていただきました。

コロナ渦でそこから止まってしまった状況でございます。新しい町長になってから、町長のトップセールスで地権者に連絡しまして、話を聞いてくれるということになりましたので、いつ行くかは町長の予定等調べておりますけども、できるだけ早めに 8 月には先方に行って話をしてみたいと思います。そのなかで、用地の話をさせていただいて、この改良の方を進めていきたいと思っておりますが、路線に関しましては、県の県道上片桐停車場線になりますので、併せて県の方にも改良工事をお願いしていく形で考えております。

いつぐらいになるという予定はまだはっきり申せませんが、相手が会ってくれるという点では進展しているのかなと思っております。

それから、前河原道路の関係のスケジュールを質問されましたけれども、今現在は中電の鉄塔があり、その中電の鉄塔の設計審査を予備設計の段階でありましたが、本設計の段階でもしてくださいと中電に言われておりまして、その関係で今現在先方と話をしております。

それが通れば、工事の方は発注できるような形になりますけども、事業の中身につきましては、5 年度中に鉄塔の審査、6 年度中に工事に入っていければいいのかなと考えております。以上でございます。

(中平委員長)

はい、寺沢さん。

(寺沢委員)

ありがとうございました。両方の点について、また次回の対策委員会にぜひご報告をお願いしたいと思います。今に関連して、松川町の道路行政というのは非常になかなか進んでいない部分があって、リニアとは離れてしまいますけど、そういうことも加味しながら、早急に対応をお願いします。以上です。

(中平委員長)

はいありがとうございます。先ほど寺沢さんからご質問のあった件に関しては、また次回に進捗状況の説明の方、町の方でもできるように努力をしていただきたいと思います。また、道路状況についてリニアと別の話ですけど、町の方でも考えていただきたいと思います。

さて、他にはございませんか。はいそれでは北沢委員。

(北沢委員)

南信州まつかわ観光まちづくりセンター理事長の北沢と申します。質問ではございません。先日、弊社と JR 東海さんとのコラボ企画ということで、松川の産物を販売いただきまして大変ありがとうございます。

飯田線は我々にとって非常に大きな動脈であります。どうかリニアも大切ですが、飯田線を使った観光もこれからともに進めていただければありがたいなということでもあります。以上です。

(中平委員長)

JR 東海さんからご回答か何かありましたらどうぞ。

(JR 東海 杉浦所長)

ご意見いただき誠にありがとうございます。長野工事事務所の杉浦です。私は前の日の大鹿の方に特急伊那路に乗って行ったわけですが、大鹿村の方も大変喜んでいただきましたし、豊橋駅のコンコースで大鹿の場合はブルーベリーを販売したわけですが、売るというよりは、通りがかった一般の方にそのパンフレットとか渡して、我々とする、飯田線を使って豊丘村、大鹿村や松川町に来ていただくことが私はありがたいし、町村の皆さんにとっては観光なりなんなりでできていたことがWin-Winであり、大変暑かったのですが、すごく良い企画だったかなと思います。他の町村からもそういったような同様の声をいただいております、またご要望があれば同じようなことがやれるのではないかと考えています。

我々としても、とても良かった・ありがたかったなと考えていますので、引続き飯田線とタイアップしながらいければいいと思っています。

(中平委員長)

ありがとうございました。また今後ともそういうような機会をぜひこちらからばかりではなくてJR 東海さんからぜひ企画を立てていただけてやっていただければ非常にありがたいなと思っておりますのでよろしく願います。それでは他に。坂本さん。

(坂本委員)

はい、すみません。願います。JR 東海さんに関しては、地元との連携ということで、小学校での交通安全大会をはじめ、いろいろ協力していただいて本当にありがとうございます。また県の方でも、県道伊那生田飯田線の改良を進めていただいて、私も福与に住んでいるもので、非常にありがたく思っております。一点、今回松川浄化センターに仮置き場として残土を運ぶということで、馬坂会所の前の交差点が完成したときから、危険な交差点だと町にも建設事務所にも言っているところあり、今回リニアの残土を運ぶということで、町道にあたる部分が非常に狭い。多分現場確認はされていると思うが、カーブ幅や真ん中にゼブラもないような非常に狭い 3 メーターの道路ということで、大型車が回ると、かなり内輪差で反対車線に出る場面があります。1 日 20 台の通行は少ない台数だとは思いますが、安全対策について今年度中に終わるということで、当然改良は無理かとは思いますが、その点、JRさんの安全確保をどのように対応するか、また県の建設事務所からはこのまま危険な交差点をそのまま残すのか、お考えがあればお聞かせいただきたいと思っております。

(中平委員長)

はいそれでは、JR 東海さん、どうぞ願います。

(JR 東海 齋藤主任)

JR 東海の齋藤です。ご意見ありがとうございます。仮置き場への運搬経路につきましては、ご指摘の通りでございます。各道路の状況をしっかりとつぶさに確認しながら、万全の対策を講じていきたいと思っております。20 台だから、台数が少ないから、という話ではなくて、1 台通る時

点で、狭いところは狭いという話になります。その点しっかり対応させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

(中平委員長)

それでは県の方からもお願ひします。

(リニア整備推進事務所 大島課長)

はい。当時、改良を行ったときと交通の状況等も変わっておるかと思ひまして、現在使っている中でも、非常に危険だというお話でございます。ただ交差している町道になりますか、そちらの方ともお話をしながら、交差点の改良といった部分についても検討していきたいと思ひますけれども、現状すぐにできるという状況でございませぬので、ご要望として事務所の方にも伝えてまいりたいと思ひます。

(中平委員長)

はい、坂本委員。

(坂本委員)

少ない台数でも危険を回避できるように安全をお願ひしたいと思ひます。先ほど建設事務所からも、事情が変わったかもしらんっていうことだったが、道が広くなって、確かにスピードを出す車多くなったと思ひますけれども、そもそも生田には工業団地があり、一番インターに行くには近く、元々大型車両、ロング車両元々通っていたので、ぜひ加味していただきたい。今の道路改良を進めていく上で終わらないと会計検査もない気がするので、そこら辺も加味して、もうすぐにやってくれということではありませぬけれども、せめて会計検査が済んだらすぐ計画に入りますとか、そういった返事をいただければ安全に通行できるのかなと思ひますので、ぜひそこら辺、危険な箇所だってことだけはしっかりと認識していただきたいなと思ひますので、よろしくお願ひします。

(中平委員長)

今のは要望でよろしいですね。はい、確かに危険な所ではありますので、もう 1 回現場を見ていただいて、確認していただいてぜひ対応をしていただければと思ひますので、よろしくお願ひします。それでは他に、北原さん、どうぞ。

(北原委員)

ちょっと何点かお伺いをします。まず 1 点、先ほどの 153 号線の陥没について、現実私もたまに高速道路を大型で走りますが、松川から伊那の間は、私が大型の形がはっきりわかるくらいでこぼこができており、伊那を過ぎると減っています。ということはダンプだけではないですが、大型の車が規定内で積んでいても、総重量とすれば重量があるので、ましてやこれだけ高温になると、舗装道路が波打つような状況にあると思うので、そういう影響は高速である以上、また一般道路であっても先ほど明確な回答がいただけなかったが、現実マンホールだけじゃなく、路肩も下がっているのです。路肩が下がって、口が開いているのですよね。だから下も見た、上も見た現実と何かそこには原因があるだろうって言ったら、その場所は昔のお墓の跡で、遺骨も入っているのです。当時、湧水もあり、サワガニがたくさん出たところですよ。

そのぐらい地下水が動いているこの現実、表面だけ見ただけでは判断ができるはずがないと思

いますのでよく見ていただきたい。道路が陥没して、大きな事故でもあれば、大事であり、大型車は重圧がかかっているということを理解いただきたい。

もう 1 点、地元のお年寄りのグループから、「私達の命はもう先はない。願わくば、リニア中央新幹線の山梨実験センターにぜひ連れてってほしい。1 回でもいいから乗ってあの世の旅にしたい」という意見が多々最近出てきまして。特段松川町は JR 東海さんのダンプを走り出しても特典がないので、JR 東海さんに負担をさせるという意味ではなく、年寄りの順番を松川町内で選択していただき、バス会社と共同して自己負担でも、毎日運行というのは難しいと思いますが、開通までの間に、松川町とタイアップしていただき、機会を作っていただければと思いますがいかがでしょうか。

(JR 東海 古谷担当部長)

ご意見ありがとうございます。実験線の試乗について検討させていただければと思います。当初言っておりました 2027 年の開業は、非常に難しい状況でありますけれども、1 日も早く開業できるように鋭意頑張ってもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

(北原委員)

お酒なんか飲む機会が最近増え、リニアの試乗について、話してこいという宿題を与えられてきたので、町内を上から拾って、毎月、何台かバスを運行し、年間何台運行できれば、相当の人間が実験線に乗れるだろうという話です。

それと鶴部の信号機ですが、本線上の信号が長く、枝線は調整を幾分かしているのでしょうか。地元のご婦人方が 1 回の信号機で本線が長すぎて、短い枝線は右左折の車が進めないときは、時間帯によって、3 回待ちから 4 回待ちまでするときがあるという意見があったので、併せて聞いてきてくれということなので、お答えをいただきたいです。以上お願いします。

(中平委員長)

信号機の件について、小沢課長お願いします。

(小沢課長)

洞新線からダンプが下から国道へ上がってきてまして、国道を右折するのに、右と左から車が来ると危ないという話と、昨年までの上片桐区長さんが、護岸線を上から竹村工業の前で降りてきてまして、国道で右折するときが非常に車が来て出づらいお話を聞いていましたので、その 2 点を踏まえ、警察に洞新線の所に信号機が作れないかお話ししたところ、完成した交差点でないので信号機をつけられませんという回答をいただきました。

藤森の信号と鶴部の信号は今まで町道側は感知式でしたが、今回藤森と鶴部の国道側が同時に赤になるように今調節をしてあります。ただ、今言ったように町道から国道に出る時間は、警察の方で決めていますので、町の方では何ともできませんが、鶴部と藤森が同時に赤になれば、その国道の間、車が来るのが少なくなりますので、ダンプや一般の車両が国道に出やすくなるだろうという形で、メリットはそういう形かなと思っています。ただ、デメリットもありまして、車が何にもないのに国道が赤になるというようなデメリットもありますけども、一応そういうことを警察に確認取りましたら、そういうような苦情は警察へ来ていないそうです。

ただ、今北原さんが言った町道から国道に出るのに時間が短すぎて出づらいというのがお聞きし

ましたので、警察へ信号機の時間は伸ばせるのか確認は取ってみたいと思います。

(中平委員長)

信号機の件はそういう形で動いていますので、また小沢課長の方からやらせていただきますので、よろしくお願いします。153号線の件は、回答はいいですか。153号線について、皆さんが非常に心配しておりますので、ぜひ県の方でも考えていただいて、早急に対応の方もぜひ考えていただければ非常にありがたいなと思っております。よろしくお願いします。他にご意見ございませんか。ご質問でも結構です。ないですか。

よろしいですねそれでは会議事項にありました(1)、(2)について質疑応答が終わりましたので、司会の方の私の役目はここまでとして、それではその他の方を事務局の方にお渡ししますのでよろしくお願いします。

(小沢課長)

はい、それでは4番のその他ということで、移動コンテナ局の測定結果ということで大蔵主任に説明させますのでお願いいたします。

(大蔵主任)

移動コンテナ局について説明

(小沢課長)

それではおおむね1時間半と考えておりましたので、これで閉会をしたいと思います。閉会の挨拶を松下副委員長お願いいたします。

(松下副委員長)

はい、それでは大変長時間にわたり大変ありがとうございました。これをもちまして第26回松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会を終了といたします。大変ありがとうございました。

以上